

BUSINESS REPORT

We Find the Way
 日本通運
NIPPON EXPRESS
証券コード No.9062

第114期 中間報告書 | 2019年4月1日～2019年9月30日



「グローバル市場で存在感を持つロジスティクス」

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか、堅調な個人消費に牽引された国内需要が下支えとなるも、米中貿易摩擦を背景とした海外経済成長の減速や地政学リスクの高まり等、景気の下押し要因が顕在化し、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような経済情勢のなか、物流業界におきまして、国内貨物は、堅調な個人消費や省力化投資を背景に、消費関連貨物及び設備関連貨物を中心に堅調に推移いたしました。国際貨物は、中国を中心とした世界経済の鈍化の影響を受け、一般機械や電子機器、及び自動車関連のアジア向け航空貨物を中心に輸送需要が減少し、総じて緩慢な荷動きに推移いたしました。

日本通運グループは、このような経営環境のなか、2019年4月1日より新たにスタートいたしました5ヶ年の経営計画「日通グループ経営計画2023～非連続な成長“Dynamic Growth”～」に掲げた重点戦略にグループ一丸となって取り組んでおります。

代表取締役社長

齋藤 充

カンパニー」を目指して

「事業の成長戦略」

「コア事業の成長戦略」における「顧客(産業)軸アプローチ」では、非日系企業との取引拡大に向けた取組みを含め、アカウント営業の更なる強化と、重点産業である医薬品のサプライネットワークの構築に向けた拠点整備と営業強化に取り組んでまいりました。また、「エリア軸アプローチ」では、成長性の高いインド市場への更なる投資、中欧間鉄道輸送の利用拡大を基軸に、更なるマーケティングの拡大に向け、カザフスタン駐在員事務所の開設など、海外事業の拡大に努めてまいりました。

「日本事業の強靱化戦略」では、国内組織の更なる大括り化を推進し、営業・事務生産性の向上と効率化、営業戦力の増強、CSR経営の強化に努めてまいりました。

「長期ビジョン実現のための取組み」

「取組みを支える機能の強化」における「IT戦略のイノベーション」では、RPAの活用を進めるなど生産性の向上や働き方改革の実現に取り組んでまいりました。また、「R&D戦略のイノベーション」では、先端物流機器の実証実験を推進し、倉庫業務への導入、実用化に取り組んでまいりました。

「持続的成長と企業価値向上のためのESG経営」では、同一労働同一賃金の実現を含む新社員制度の導入に加え、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得促進、テレワーク等の柔軟な働き方の実現などの各種取組みの推進を通じてワークスタイルの変革への挑戦に努めてまいりました。

この結果、第114期第2四半期連結経営成績につきましては、**売上高は1兆389億円**(前年同期比0.1%減)、**営業**

利益は291億円(前年同期比14.4%減)、**経常利益は328億円**(前年同期比13.1%減)、**親会社株主に帰属する四半期純利益は190億円**(前年同期比18.9%減)となりました。



なお、第114期中間配当金につきましては、本年10月31日開催の取締役会において、普通株式1株につき、75円と決定し、支払開始日を本年12月3日とすることを決定いたしました。

当下半期の経済動向につきましては、国内経済は、引き続き内需が牽引すると予測されますが、消費増税により個人消費は一定程度の影響を受けると考えられ、輸出を中心とした外需の弱さと合わせて引き続き経済の下押し要因となると予測されます。また、海外経済は、高まりつつある地政学的リスクに加え、米中貿易摩擦の影響を受けた各国経済の減速、政情・政策に関する不確実性等、不透明な材料が顕在化しており、引き続き経済成長は鈍化していくと予測されます。

このような経営環境のなか、物流業界は働き方改革の推進や人材確保・育成への取組みに加え、先端技術を導入した新たな物流サービスの開発や環境負荷低減への対応など、業界全体として社会の持続的な成長を支える新たな価値創造産業への転換が求められております。

日通グループは、長期ビジョンで描く「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」を目指し、更なる成長と、より一層の企業価値向上を図り、株主の皆様のご期待に応える所存でございますので、引き続き株主の皆様のご理解と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

- 
 世界経済減速の影響を受け国際貨物需要が鈍化したことなどにより**減収**、また社員制度改革に伴う人件費の増加などにより**減益**
- 
 7月公表の業績予想から売上高は予想を下回るも各利益は予想を**上振れ**

売上高

1兆389億円
(前年同期比**0.1%**減)

営業利益

291億円
(前年同期比**14.4%**減)

親会社株主に帰属する四半期純利益

190億円
(前年同期比**18.9%**減)

中間配当金

75.0円

売上高

(単位：億円)

営業利益

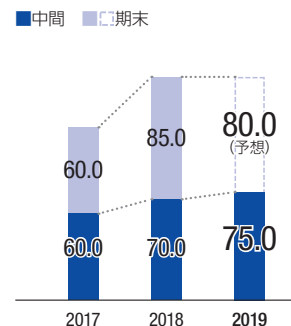
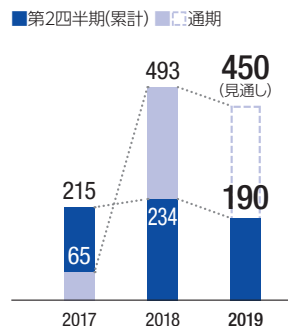
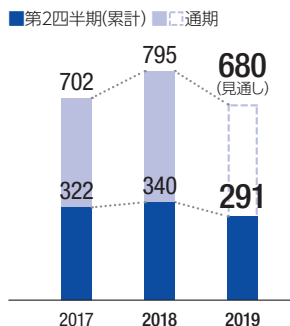
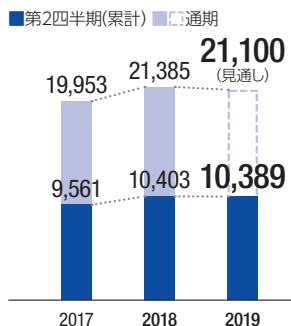
(単位：億円)

親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位：億円)

1株当たり配当金[※]

(単位：円)



※記載の配当金は、2017年10月1日付の株式併合(10株→1株)を考慮した金額で記載しております。



ロジスティクス

■売上高

8,170億円

(前年同期比 0.6%減)

78.6%

■営業利益

268億円

(前年同期比 10.1%減)

日本	58.7%	東アジア	5.4%
米州	4.6%	南アジア・	
欧州	5.7%	オセアニア	4.2%



警備輸送

■売上高

364億円

(前年同期比 1.2%増)

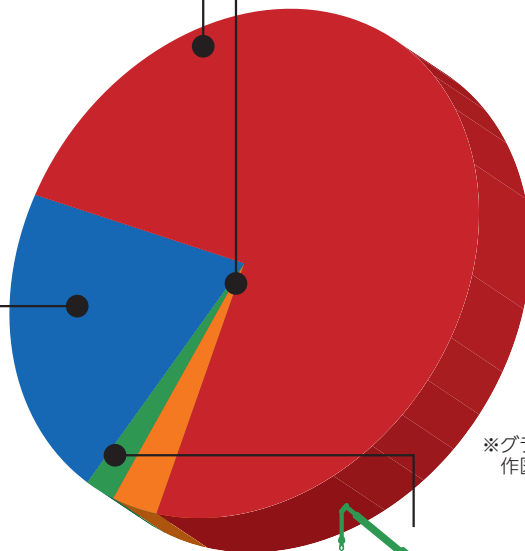
3.5%

■営業損失

12億円

(前年同期は2億円の営業利益)

セグメント別 売上高構成比



※グラフの比率は調整額を除いて
作図しております。



物流サポート

■売上高

2,283億円

(前年同期比 0.1%減)

■営業利益

57億円

(前年同期比 0.3%増)

22.0%



重量品建設

■売上高

272億円

(前年同期比 9.6%増)

■営業利益

26億円

(前年同期比 27.7%増)

2.6%



日通と

世界展開

世界の国々や地域において、物流を核としたサプライチェーンソリューションを提供し、お客様のグローバル展開に貢献します。

フィンランド共和国で営業を開始

当社グループ会社であるAPC LOGISTICS ABは、フィンランド共和国の首都ヘルシンキに支店を開設し、6月から営業を開始いたしました。

フィンランドに自社拠点を開設することにより、同国でビジネス展開しているスウェーデン系企業をはじめ北欧系企業を中心に、同社が優位性を持つ北欧ーアジア間の輸送において、作業品質の向上やカスタマーサービスの強化を図り、サービスを展開してまいります。

カザフスタン共和国に駐在員事務所を開設

当社東アジアブロックは、カザフスタン共和国のアルマトイ市に駐在員事務所を開設し、8月に開催した開所式では、カザフスタン産業インフラ発展省のティムール・トクタバエフ副大臣をはじめ約20名の来賓を迎えました。

カザフスタン共和国は、ユーラシア大陸の中央部、中央アジアに位置する東アジアと欧州を結ぶ鉄道輸送の要衝の地であり、同事務所では、現地における情報収集、マーケティング調査を行います。

また、中央アジアという地理的特性を踏まえ、東アジアと欧州間のビジネス拡大に向け、同国での将来的な事業性の検証も行ってまいります。



開所式でスピーチをする齋藤社長

モロッコ王国・タンジェMED港内に新拠点を開設

フランス日本通運株式会社は、アフリカ最大級のコンテナ港であるモロッコ王国のタンジェMED港内に、同国内で2カ所目の拠点となる「タンジェMed・ロジスティクスセンター」を開設し、6月から営業を開始いたしました。

近年、モロッコでは、北部地域のタンジェMED港をゲートウェイとした、北部アフリカと西部アフリカの物流ハブとして地位を確立すべく政府が施策を展開しており、今後ますますの成長が見込まれる同国および北アフリカ地域でのロジスティクス機能を強化してまいります。



タンジェMed・ロジスティクスセンター

「今のAFRICA」イベントに参加

当社は、5月25日・26日の2日間、横浜市で開催されたイベント「今のAFRICA」に参加いたしました。

在京アフリカ外交団が主催したこのイベントは、アフリカの文化や経済的な可能性を紹介するものであり、当社は両日にわたりブースを出展いたしました。ご来場の方々にアフリカで展開する事業内容やサービスを紹介し、当社が輸送を行っているケニア産のバラを配布いたしました。

当社は、2017年8月にアフリカ初の営業拠点としてケニア共和国の首都ナイロビにケニア支店を開設し、また同年12月には、モロッコ王国のカサブランカ市にモロッコ支店を開設いたしました。今後ますますの成長が見込まれるアフリカ地域でのお客様ニーズに対応すべくサービスの拡充に努めてまいります。



当社ブースの様子

先端技術

イノベーションを通じてお客様や社会への
価値創造と社会課題の解決を目指します。



国内初となる公道を使用した自動運転の実証実験を実施

当社は、UDトラックス株式会社、ホクレン農業協同組合連合会と共に、国内初となる公道を一部含むルートで、レベル4技術(特定条件下における完全自動運転)を用いた自動運転の実証実験を実施いたしました。

本実験は、物流の現場で深刻化するドライバー不足の解消に向けたソリューションのひとつとして実施しており、自動運転トラックの実用化へ向け一歩前進いたしました。



倉庫向け協働型ピッキングソリューションの実証実験を実施

当社は、6月に東京都内の当社物流センターでRapyuta Robotics株式会社と共に、倉庫向け協働型ピッキングソリューションを用いた実証実験を実施いたしました。

今回の実証実験では、倉庫内のピッキングエリアにおいて人や物に干渉することなく稼働するRapyuta Roboticsのロボットを使用し、人員のみで作業を行った場合とロボットを併用した場合を同一の出荷オーダーで比較した結果、人とロボットが安全に協働できることやロボットの利用によって作業時間が短縮されることが確認されました。

今後は、更なる実証実験を行って評価・検証し、2019年度中の既存倉庫への導入を目指してまいります。



実験に使用したロボット

日通と

社会責任

持続可能な社会の創造に向けて、事業活動を通じて、
企業の社会的責任を果たします。

風力発電機輸送に新車両を導入

国内で7割の風力発電機を輸送している当社は、発電効力の向上に向けた発電機の大型化に対応するため、4,000kWの大型風車でも輸送可能な起立装置を備えた新車両「ブレードリフター-TL」を5月に導入いたしました。

従来のブレード輸送は、山道の手前に設けた仮置き場まで特殊トレーラーで運ぶ必要がありましたが、新車両では中長距離の輸送が可能となり、設置場所まで積み替えることなく輸送することが可能となります。

当社は、今後も再生可能エネルギー関連業務を通じて、持続可能な社会の創造を目指してまいります。



「日通の森」で森林育成活動を実施

当社は、山形県飯豊町および鳥取県日南町の「日通の森」で森林育成活動を実施いたしました。

この活動は2007年から10年以上継続しており、当社従業員とその家族が、下草刈りや植樹、動植物の生態系調査などの活動を通じて、地域社会と連携した地球環境保全に貢献しています。

当社は、今後も持続可能な社会の創造や地球環境保全のため、また従業員とその家族の環境への意識醸成の場として、森林育成活動を積極的に行ってまいります。



国立科学博物館

「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」

～大航海の成功を物流で支援～

当社が協賛する「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」(国立科学博物館)が、7月の台湾から与那国島までの大航海の成功をもってフィナーレを迎えました。

3万年以上前に、日本人の祖先が日本列島に海を越えてやってきた謎を解くため、当時の大航海を再現した「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」は、3年の準備期間を経て2016年にスタートしました。当社が企業メッセージ「We Find the Way」に込めた、「お客様や社会の為に、創意工夫を繰り返し、新しい道を切り拓き続ける」という企業姿勢にも通じ、協賛したものです。

当社は、丸木舟の制作現場である首都大学東京八王子キャンパスから国立科学博物館および海上テスト現場となった千葉県館山への輸送、台湾への輸出、与那国島から東京までの輸送でもサポートし、8月には「黒潮を越えた丸木舟 ～台湾→与那国島 航海の全記録～」展に向け、大航海を終えた丸木舟を再び国立科学博物館へ輸送いたしました。

当社は、今後も、社会の変化に合わせて、自らを進化させ続け、物流から新たな価値を創造することに挑戦してまいります。





2018年7月、公開実験に向け八王子から国立科学博物館へ



2018年9月、八王子から海上テストの現場・館山へ



2019年7月、航海を終え、与那国島から東京へ



2019年8月、国立科学博物館での展示作業



写真提供：国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」



取締役	代表取締役会長	代表取締役社長 社長執行役員	代表取締役副社長 副社長執行役員		
	渡邊 健二	齋藤 充 最高経営責任者 経営戦略部門総括 経営戦略本部長	石井 孝明 ビジネスソリューション部門総括	竹津 久雄 コーポレートソリューション部門総括 コーポレートサポート本部長 CSR本部長	秋田 進 日本事業部門総括 日本事業本部長 ネットワーク商品事業本部長 日本事業統括部担当
	取締役 執行役員	取締役			
監査役	増田 貴 経営企画部、 財務企画部担当	杉山 雅洋	中山 慈夫	安岡 定子	
	(注)杉山 雅洋、中山 慈夫および安岡 定子の各氏は、社外取締役であります。				
執行役員	常勤監査役	監査役			
	鈴木 達也	神吉 正	林田 直也	野尻 俊明	青木 良夫
(注)神吉 正、野尻 俊明および青木 良夫の各氏は、社外監査役であります。					
執行役員	専務執行役員	常務執行役員	執行役員		
	池田 誠 近藤 晃 中村 栄一 堀切 智	杉山 龍雄 植松 満 内田 敏朗 永井 裕	宮脇 一郎 中川 真人 海野 茂 合屋 隆司	高橋 浩 杉山 千尋 有馬 重樹 関根 章好	浜島 和利 竹添 進二郎 山田 雅之 松本 元
古江 忠博 田中 博之 大槻 秀史 赤間 立也					

会社概要

会 社 名	日本通運株式会社	
本 社	〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号 TEL: 03-6251-1111 https://www.nittsu.co.jp/	
設 立	1937年10月1日	
資 本 金	701億75百万円	
従 業 員 数	34,567名	
支 店	336支店	
連結子会社および 持分法適用会社	連結子会社	271社
	持分法適用会社	23社
事 業 内 容	貨物自動車運送事業 利用航空運送事業 船舶利用運送事業 内航海運業 鉄道利用運送事業 倉庫業 警備業 重量物の運搬、架設、設置および これに付随する事業 建設業 旅行業 通関業ほか	

株式の状況

株 式 数	発行可能株式総数	398,800,000 株
	発行済株式の総数	98,000,000 株
株 主 数	49,861名	

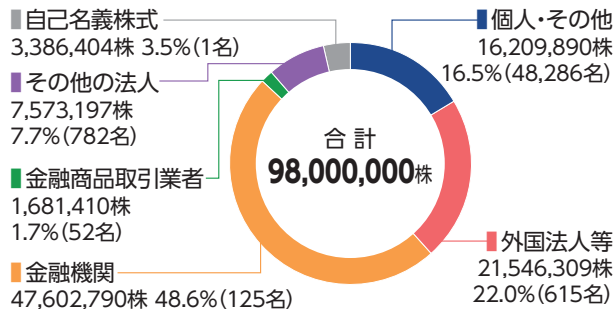
大株主

株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	9,507,300	10.04
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	8,995,374	9.50
朝日生命保険相互会社	5,601,967	5.92
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	4,150,000	4.38
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,972,752	4.19

※ 持株比率は、自己株式3,386,404株を控除して計算しております。

所有者別株式の分布状況

〈株式数および比率〉



単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。



買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。



各種お手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社
 - ②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行
- (※下記までお問い合わせください。)

東京都府中市日鋼町1-1
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 ☎ 0120-232-711
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては
 当社ホームページでも
 ご案内しております。

<https://www.nittsu.co.jp/ir/stock-info/procedure/>

日本通運 株式諸手続き



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から
 翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

単元株式数 100株

上場取引所 東京

証券コード 9062

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公 告 方 法 電子公告
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ホームページアドレス
<https://www.nittsu.co.jp/>

CORPORATION

事業内容やサービス紹介、最新ニュース、IR関連などの幅広い情報をタイムリーに発信しています。

<https://www.nittsu.co.jp/>



SPORTS

当社は、部活動を通して、様々なスポーツの普及、振興、国際化に努めております。

<https://www.nittsu.co.jp/sports/>



TVCM

放映中のTVCMやTV番組を通じて、当社が展開している様々な取組みを多くの方々にお伝えしています。

<https://www.nittsu.co.jp/corporate/cm/>



We Find the Way「原英莉花プロ」篇

今年当社と所属契約を結んだ女子プロゴルフの原英莉花選手に出演いただいています。

世界を舞台に挑戦するその姿を通じ、当社の企業メッセージ「We Find the Way」の理念を象徴的に表現しています。



世界日通。「医薬品」篇

世界日通。「医薬品」篇は、海外で開発された薬が患者の手に届くまでのストーリーの中で、当社の温度管理輸送や医薬品に特化した先進的な輸送を紹介しております。

Youtube公式チャンネル

TVCMや企業活動、歴史など当社にまつわる情報を映像でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/channel/UCatNmOs5hJzVWMfofQeUnaQ>



SAMURAI
JAPAN



世界日通。

ともに前へ、ともに世界へ!

日本通運は侍ジャパンを応援しています。

© 2019 SAMURAI JAPAN

We Find the Way



日本通運
NIPPON EXPRESS

〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL: 03-6251-1111
URL: <https://www.nittsu.co.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。